

花香鳥語 — 中国明清の絵画 —

2019年4月6日(土)ー5月12日(日)

春爛漫の季節、咲き誇る花々やさえずる鳥たちを愛でるのは、古今東西を問いません。しかし、その絵画における表現は一様ではありません。中国明清時代の院体画・文人画に描き出された花鳥の華麗な競艶をお楽しみください。



《罌粟図》 王武 清時代・康熙15年(1676) 本館蔵

おおさかの仏教美術 2

2019年4月6日(土)ー5月12日(日)

当館は開館以来、近畿をはじめとする寺院、神社よりご宝物をお預かりしております。昨年の第1弾に続き、今回も大阪府に所在する約50の寺社に伝来したご宝物のなかから数点を紹介します。信仰のよりどころとなった寺社は文化財保護の担い手としても重要な役割を果たしてきました。幾度の天災、戦災を乗り越えてこの地に伝わった仏教美術作品をご覧ください。



重要文化財《兜率天曼荼羅》(部分) 鎌倉時代・13世紀 大阪・延命寺

白いやきもの

2019年6月1日(土)ー6月30日(日)、7月16日(火)ー7月28日(日)

一口に「白」と言っても、やきものには幅広い色彩・質感の「白」があります。温かみのある中国の定窯白磁、素朴で力強い朝鮮白磁、白釉がぼつたりと掛かる志野焼など・・・。



《白磁 鎚文碗・托》 朝鮮時代・19世紀初期
本館蔵(田万コレクション)

本展示では、白磁をはじめ白釉や白化粧を施したやきものを中心に紹介いたします。

絵巻を写す

2019年6月1日(土)ー6月30日(日)、7月16日(火)ー7月28日(日)

古来、多くの絵巻が制作されると同時に、それらを「写す」という行為もなされてきました。絵を学ぶため、覚えておくため、後世に伝えるためなど、その目的は様々ですが、それらの中にも見るべきものは多くあります。本展示では、江戸時代に写された絵巻を紹介いたします。



《七難七福図巻》(部分) 吉城玉深 嘉永4年(1851) 個人蔵

幽美を求めて — 墨から墨まで —

2019年6月1日(土)ー6月30日(日)、7月16日(火)ー7月28日(日)

鎌倉時代に禅とともに中国から伝えられた水墨画は、画僧らがその担い手となって発展し、室町時代後半以降は専門絵師らが個性あふれる絵画表現を開拓していきました。日本絵画の美を象徴する、詩情豊かな中・近世水墨画の世界をご鑑賞ください。



《富士雲龍図》(部分) 狩野探幽筆 隠元隆琦賛 寛文2年(1662) 大阪・慶瑞寺